

赤穂市水道事業経営戦略ロードマップ

(資料4)

令和8年3月策定

赤穂市水道事業

1 これまでの主な経営健全化の取組

赤穂市水道事業は、これまで水道施設整備において管路や施設の更新時期の適正化や、機械・電気設備の長寿命化に配慮しつつ事業を行ってきた。一方、更新すべき管路・施設は増加する見込みで、引き続き効率的かつ効果的な整備を行うとともに、財源確保が必須となっている。

2 料金回収率向上に向けたロードマップ

水道事業は令和8年度以降、事業所の撤退や事業休止により大幅な減収が見込まれ、同時に資本的支出は、令和8年度から令和11年度にかけて施設更新工事を控え、料金回収率の悪化が見込まれている。今後も料金回収率を可能な限り維持できるよう、料金改定に向けたロードマップを以下のとおり示す。

項目 \ 年度	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	
経営戦略計画期間	←					→	←				
経営戦略の改定	●					●				●	
ロードマップ策定・改定	●					●				●	
使用料の検討		●	←			●	←				

3 業績目標

料金回収率について、一時的な低下は避けられず、令和13年度以降の料金改定等（改定率50%）を想定した数値を下表に掲記している。なお、令和7年度から令和12年度までの供給単価については、給水収益の予測値を算出するにあたり前回経営戦略策定時の65.15円を採用している。

項目 \ 年度	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
供給単価（円）①	65.15	65.15	65.15	65.15	65.15	65.15	86.25	86.13	86.02	85.93
給水原価（円）②	70.22	84.71	87.29	89.37	89.87	90.87	92.30	93.52	94.75	95.78
料金回収率（%）①/②	92.8%	76.9%	74.6%	72.9%	72.5%	71.7%	93.4%	92.1%	90.8%	89.7%

4 進捗管理と経営指標

經常収支比率が100%を超える安定的な事業運営を目指す必要があるが、上記「3業績目標」に記載した供給単価では、令和16年度の經常収支比率は93.8%にとどまる。本経営戦略については、毎年度決算時に検証・見直しを行うとともに、「赤穂市上下水道事業在り方検討委員会」においても検証・評価を行う。また、本経営戦略は、5年に1度（次回は計画期間の中間年度である令和12年度）改定を行う。

項目 \ 年度	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
収益的収入（百万円）a	888	747	737	731	726	723	980	969	959	951
収益的支出（百万円）b	915	947	961	970	987	993	998	1,003	1,008	1,014
經常収支比率（%）a/b	97.0%	78.9%	76.7%	75.4%	73.6%	72.8%	98.2%	96.6%	95.1%	93.8%